

上益城郡教科等研究会（中学校総合的な学習の時間部会） 平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方
～生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくりを通して～

2 研究経過

期日	人数	活動内容	場所
5/30（火）	9	研究テーマ・計画・組織等協議（半日）	甲佐中学校
8/8（火）	7	①食の名人さんによる郷土料理体験 ②単元計画づくり（一日）	中島小学校
11/16（木）	7	研究授業・授業研究会（半日） 単元名：「ふるさとをみつめる」 授業者：教諭 村上伸一郎 1年部職員	御船中学校
1/29（月）	8	研究のまとめ（実践レポート研修）（半日）	甲佐中学校

3 研究の概要

(1) 研究の内容

これまで本部会では、総合的な学習の時間の目標に焦点を当て、「生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方」を、研究テーマに設定して取り組んできている。また、学習指導要領では、体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることを、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けることの大切さを述べている。本部会では、このような言語活動を計画的に設定し、「分かる・できる」「楽しい」という学習への満足感を高めることもめざし、副題に取り入れて研究を推進していくこととした。

① 学習指導要領趣旨理解の研修

本年度も、部会員の構成が大きく代わったため、学習指導要領の改訂の趣旨や要点・目標・内容に関する改善点と学習指導の展開例を確認するとともに、次期学習指導要領の方向性について研修を実施した。

学習指導要領の改訂の趣旨や要点・目標・内容に関する改善点については、学習指導要領から必要な内容を抜粋して、開設当初からの流れと課題点に対する具体的な改善点を確認した。

具体的な学習指導の展開では、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」を使って、以下のことについて協議した。

ア 探究的な学習 イ 協同的な学習 ウ 体験活動の重視 エ 言語活動の充実
オ 評価の観点・方法

次期学習指導要領については、まだはっきりとした情報がなく、分かり次第連絡することを伝えた

② 単元計画作成と探究的な活動の「整理・分析」段階の演習

各学校の単元計画作成状況を確認し、木山中学校の単元計画を例に、各学校で本年度作成してもらう単元の見通しを持ってもらった。探究的な学習活動や協同的な学習活動については、具体的な活動や活動上の課題点を出し合い、自分の学校の状況と比較してもらい、課題解決を行った。

探究的な活動の演習では、「整理・分析」段階でどのような活動ができるのか、どのような対話、アドバイスによって学習が深まるのかを全員で考えた。グラフ化、ベン図、座標軸、ブレインライティング、ビフォー・アフターなどの技法を学ぶことができた。

③ 食の名人さんによる郷土料理体験（小学校部会と共同開催）と単元計画作成

ア 郷土料理体験

山都町在住の藤本さん、大濱さんのご指導の下、郷土料理体験を実施した。初めに郷土料理の特徴について、「旬の物を料理すること」「保存が効くように料理すること」「身近で採れる物を使うこと」などの話があった。

身支度を調べて調理室に移動し、本日作る「葉っぱ団子」「冷し汁」「野菜の押し寿司」「干し筍のきんぴら」「トマトサラダ」のメニューの発表と作り方の説明があった。先生方は、6カ所に分かれそれぞれが率先して、料理作りを担当された。この積極性と対応力には感心した。

料理作りを進めていく中で、「野菜の漬け物の大きさは、どのくらいに切ったらよいのか」「葉っぱ団子の粉を練った固さはどのくらいが良いのか」「きんぴらの炒め具合はどの程度なのか」など先生方から多くの質問が出され、藤本さんと大濱さんは的確に答えられ作業もスムーズに進み、先生方も楽しみながら料理をされていた。



【 郷土料理の説明 】



【 完成した郷土料理 】



【 会食と質疑応答 】

料理が完成し、参加者全員で会食した。会食しながら、今日の感想や郷土料理についての質問が出された。その時の質疑応答と感想の内容は、以下の通りである。

Q：この郷土料理は、どんな時に作るのですか？

A：昔は、田植えや稲刈りなどの農作業の時や旬の野菜を日頃から使って作っていた。

Q：子ども達に、ぜひ郷土料理のすばらしさを伝えたいので来てもらえますか？

A：山都町内であれば行けますし、各町に食の名人さんがいらっしゃるので、聞いてみて下さい。

郷土料理を作ること、味わうことが普段の生活の中ではほとんどないので、今回の体験は貴重なものとなりました。食材一つにしても、「今は旬の野菜がこれだから、こうやって食べよう」「忙しいから、簡単に作れるこの料理にしよう」など、先人の知恵が感じられる物ばかりでした。私もあまり知らないことばかりですが、郷土の伝統と先人の知恵を、子ども達に伝えていかなければならないと思いました。

郷土料理は、農村の暮らしの中で、暑いときに食べやすく食欲が出る物、農作業の後や農作業中に簡単に食べられる物ということを改めて知ることができた。この体験研修の後、食の名人さんである藤本さんと大濱さんと話す機会があったが、地域の方々や子ども達のために尽力したいという気持ちを強く持たれているお二方で、その熱心さに感銘を受けるとともに、感謝の気持ちでいっぱいになった。子ども達に地域の良さや人々の願いをしっかりと伝えなければならぬと強く思った。

イ 単元計画作成

第1回目の部会で、各学校の単元計画作成状況を確認した際、新しく部会員になられた先生方から、「どの程度作成してあるか分からない」という意見も聞かれたので、単元計画作成の演習を実施した。木山中学校の単元計画のデータと様式を手本として作成することにした。どの先生方も探究的な活動になるように工夫しながら、集中して作業に没頭された。その結果、多数の単元計画を作成することができ、2・3学期と来年度からしっかり活用できるよう、紙媒体とデータとして、各学校引き継いでもらえるようお願いして、この時間を終了した。



【 単元計画作成の様子 】

(2) 成果と課題

成果としては、郷土料理体験を通じて「人々の暮らしと料理が密接に関わっていること」「料理が長持ちするように塩や酢を使って料理していること」「旬の物を簡単に料理すること」など、自然や気候の利用や人々の努力、工夫、思いがあることを知ることができた。また、食の名人さんなど、地域の方々が子ども達の教育のために何か尽力したいという思いを知ることができた。各学校で地域人材の活用モデルとすることができた。単元計画作成では、ある程度の時間を費やしたことにより、多数の単元計画を作成することができた。このことにより、総合的な学習の時間の進め方に見通しを持つことができ、探究的な活動の流れをつかむことができた。研究授業では、まとめ方、発表の仕方、相互評価の仕方など、クラスや学年全体での発表の仕方について提案された授業であった。

課題としては、どの学校も固定化された総合的な学習の時間の計画や体験学習があり、その計画を使って毎年同じ学習の繰り返しや担当者が代わると活動が元に戻ってしまうという課題も引き続き残っている。学習単元計画の完全作成と年間計画にリンクさせた探究的な学習の展開を計画段階として完成させる必要がある。また、次期学習指導要領の先行実施により、全体計画の考え方や様式が大きく変わる。これまでの実践の基盤の上に、次期学習指導要領の目標と内容を網羅しながら、計画を見直す必要がある。また、何を学ぶのか、何ができるようになったのかなど子ども達の自己評価、相互評価、教師側の評価についても計画的・継続的に実施する必要がある。

4 実践事例

(1) 授業研究会の概要

単元名「ふるさとをみつめる」 授業者：御船中学校 教諭 村上伸一郎 1年部職員

本授業は、1年生の地域調べ学習「まとめ・表現」の授業であった。熊本地震を経験したことにより、学んだことや防災について調べ学習を、8コースに分かれて学習課題を設定し、子ども達が調べた内容を、ポスターセッション方式によって発表し、聞く側と説明する側に分かれて、良かった点や改善点のアドバイスを付箋に記入し、発表者に渡していった。発表の仕方やまとめ方は、グループ独自の工夫があり、どうしたら伝わるかの工夫がうかがえた。学習した内容は、生活体験や現地調査、インターネットを通してつかんだ情報をもとに、将来の御船町や熊本地震からの復興のために何を大切にすべきか未来志向の発表内容であった。

① 自評

- ・指導案の展開案のみの形式を本校の授業のUD形式に変えた。
- ・現在、落ち着いた状態で学習ができており、これまで地域調べをやってきたが、熊本地震を経験したことで、防災教育の視点も入れて今回この単元を考えた。被災したからこそ、復興のために人々が努力してきたことや生き様から学び取らせたいと考えた。
- ・1クラス8班で編制し、学年全体32班で構成した。学習課題は、教師側から提示して班に選ばせた。
- ・調べる段階では、タブレットパソコンが40台導入されたので、これを利用して助かった。
- ・発表の練習はしていないが、流れだけを指示して本日の発表会になった。

② 質疑応答

Q：発表時間が設定してあったが、生徒の発表内容は時間に合わせてまとめていたのか？

A：まとめている時は指示はせず、発表の流れを指示した時に連絡した。

Q：指導計画にはなかったが、これまでの学習を受けて、子ども達が今後まとめた内容を修正する時間や教師が生徒の学習状況を評価する時間はあるのか？

A：今後時間を取っていききたい。子ども達は、ポートフォリオとして学習したことをまとめているので、これを活用して、教師の評価も今後やっていきたい。

Q：まとめ方の指示や手立ては、教師からあったのか？

A：表題、メンバー、資料の掲示の仕方は指示したが、まとめ方は自由にした。

Q：グルーピングの仕方と現地調査等については、どのような指示をされたのか？

A：8テーマについて、基本4人グループで担当するようにした。現地調査は、恐竜博物館に班長のみが聞き取りに行き、ボランティアについては、班全員で聞き取りに行った。

Q：各グループの発表内容は、事前に子ども達は見ていたのか？

A：全てのクラスの発表が終わってから、校内に掲示して見せたい。町内にも展示したい。

Q：発表の仕方、「声が小さい」という予想がされていたが、本番での教師の支援はどう考えておられたのか？

A：発表の仕方は事前に動きの確認をし、発表する場所を前に移動させた。

③ 協議

- 発表した後に、評価をしてもらっていたが、発表グループで改善策を考えさせる時間を設定した方が、発表会の効果が上がると思う。そのために、発表を聞く時間を短縮するために、聞く側は4グループぐらいにすると、発表の仕方を改善する時間が生み出せたと思う。
- 熊本地震についての復興等について学習したのだから、今後この学びをどう生かしていくのかが大事だと思う。矢部中学校の場合は、3年生の段階で1年生で学んだ地域調べの内容を行動化することになっている。せっかく学習したので行動化までつなげてほしい。
- 3年間を見通した学びを教師側が意識し、分かった内容だけを発表させるのではなく、子ども達が考えたこと感じたことを入れながら発表するとさらに学習への達成感が持てる。
- 横断的な学習として、国語や音楽などの他教科の学習内容と福祉体験をつなげて実践したことがあるので、今後検討してもらいたい。

④ 助言・まとめ

短期間の中で、集中して取り組んでいただきありがとうございました。落ち着いた雰囲気の中で、授業が展開され学習の約束がしっかり守られていた。学習内容としては、熊本地震を取り扱われたことは、子ども達が経験的に学べる内容であった。発表の様子から、見出し、写真、絵の使い方、まとめ方の工夫が各グループよかった。聞く側が、付箋に評価を書いて返すやり方は時間短縮にもなりよかった。

これまでの学びをさらに高めてもらうために、発表する目的を明確にして、相手意識を持った発表の仕方を学ばせて欲しい。一度発表が終わったら、作戦を持つ時間をとるとよかった。グループ学習での評価の仕方は、リーダーだけではなく、最後に必ず個人に返して学習を振り返らせて、評価の資料にして欲しい。学びの成果を、町に返す方法は、とてもすばらしい。子ども達の地域貢献にもなるので、子ども達に交渉させてみてはどうだろうか。

(2) 学習指導案

6. 本時の学習

(1) 目標行動

- ・熊本地震で学んだことを発表することができる。
- ・各コースの発表の中から、これからの御船町にとって大切なことを見つけ指摘できる。

(まとめ・表現)



(2) 達しない生徒への手立て

<予想されるつまずき>

- ①発表の音が小さく聞き取りにくい。
- ②時間内に終われない。

<手立て>

- ①発表がスムーズにいくようデジタイマーを利用する。

発表 3分
質疑・応答・評価 1分
移動 20秒

(3) 本時の展開 (13 / 14 時間)

【TG】 熊本地震を乗り越えて、今後町のためにどんなことができるだろうか。		
学習活動(分)	発問・指示・説明	指導の工夫・評価
1 黙想 挨拶 2 開会宣言 3 諸注意 4 準備 (5分)	「本時の発表の流れを確認しましょう。」 ・発表者の心得 ・聞き手の心得を確認する。 「各班で準備をしてください。」	【視覚化】メニューボード ・本時の流れを確認する。
【学び合い1】 能動の場面 5 各コースの発表 (40分)	「各班ごとに発表をお願いします。」 (全8コース) 各コースの持ち時間 発表 3分 質疑・応答・評価 1分 計 4分 ※ 移動時間 20秒 ※ 聞き手は各班で一斉に回る 【主発問】 御船町にとって大切なことを発見することができましたか。	【視覚化】 ・デジタイマーを使用 発表・評価の時間、移動を区別しスムーズに進行させる。 【焦点化】 (発表者) ・PPボードを活用し、簡潔に内容をまとめ、全員に発表させる。 (聞き手) ・良いと思うところを青 アドバイスを赤で記入させる。
【学び合い2】 徹底の場面 6 まとめ (5分) ・感想発表 ・次回の予告を聞く	・生徒代表 (発表生徒) (聞き手生徒) ・次回の発表	【評価】 ・御船町に大切なことを発見し説明している。 【共有化】 ・各テーマの発表を聞き熊本地震から学んだことを今後の生活に生かす。